

●UECものづくりコンテスト2018 入賞者紹介(7)

1 受賞者プロフィール

【氏名】 吉澤 駿暉 (よしざわ・としあき)

【所属1】 電気通信大学 情報理工学域 I 類(情報系) 2年

【所属2】 ベンチャー工房 IML インタラクティブ・メディア・ラボラトリ

【生年】 1998年8月、練馬区生まれ

【高校】 東京都立大泉高等学校・附属中学校

【部活】 中高通してサッカー部

【UEC 進学の原因】 ゲームの AI に興味があった。国立大で情報系を研究できるので選んだ。



2 受賞作品

【名称】 音声を大事に聴くための線香花火型音声再生デバイス

【受賞】 株式会社 CRE-CO 賞(賞金 10 万円) / モバイルクリエイト株式会社賞(賞金 5 万円)

【概要】 短い音声メッセージを大切な人に送り、送られた人はそれを大切に扱い、集中して聞くという動作を線香花火型のデバイスで象徴している。線香花火が持つ、はなかさ・風流さの性質を、デバイスに託した。デバイスには、小型のスピーカーと LED がついていて、花火の光とメッセージの再生ができる。

【用途】 旅立つ友人への寄せ書きのように、一人の相手に大事なメッセージを伝えるときに利用。

【動機】 現代は、コミュニケーション技術が発達し、方法が多様化して便利になっている。言葉が簡単に伝えられてしまう手軽さゆえに、思いが伝わらないことがある。だからデジタルデバイスなのに取り扱い制限を加えることで、言葉を大切に伝えよう、というメッセージを形にした。

【ポイント】 メッセージを聞けるのは一度だけ、不注意に扱おうとデータが消える、という不自由な制限を設けた。心が集中できる静かな場所で、メッセージを大切に聞いてもらうのが狙い。

3 インタビュー

【出展の感想】 プロトタイプがなくポスターだけだった。説明と質疑応答を何回も繰り返したおかげで、我々自身がこの企画の理解を深めることができた。例えば、「再生は 1 度だけで良いのか?」「扱い方を間違ったらデータが消える仕様で良いのか?」「使い捨てか?」「スパイ大作戦の指令のような使い方もできるのではないか」などの質問、アドバイスがたいへんありがたかった。

今回は 3 人チームで活動した。一人が武蔵野美術大学 MAU の 2 歳年上の学生だった。大学の中では先輩・後輩の関係が少なかったので、チームの中で経験できてうれしかった。また発想が違うので、一方的にならずに済んだ。電通大の学生は、新規性や弱点をどう補うかに集中しがち。しかし MAU 学生は、人に使ってもらうにはどうするか、という視点。今回、二つが組み合わせ合った。

【協賛企業様へのメッセージ】 表彰式の時、我々を評価してくださった企業様のコメントに「優しい」という言葉があった。我々は不自由を強いて「厳しい」と思っていたのに逆の言葉で表現してもらえたのが嬉しかった。ありがとうございます。

【次年度参加者へのメッセージ】 コンテストはいろんな人と発想と触れ合える機会。考え方の違う人を大切にしようと思える。そもそも一人だと面倒くさいから応募しないだろうけれど、チームを組むとやらなきゃ!と思う。チームの力は大きい。

【11 月 25 日の成果発表会までの開発目標】 プロトタイプを作って経験してもらえるようにする。

【学部在学中の活動方針】 2018 年 3 月に、IML のメンバーとして、情報処理学会インタラクティブ 2018 で発表した。初めての経験だった。英語論文を読む練習で、英語の大切さにも気づいた。大学院進学を考えているので後期が始まったら、研究室を幅広く見て回り、情報収集する。

